

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を厳修 御親修のもと共に勝縁を慶ぶ

大谷派千歳山天融寺

真宗大谷派天融寺(宮本正尊住職・北海道恵庭市)は、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を、会館・納骨堂・庫裡落慶法要、開基住職百回忌法要と併せて、11月1~3日に厳修した。また、真宗大谷派大谷婦人会天融寺支部(宮本春美支部長)が創立百周年という勝縁を迎えたことから記念大会を開催。宗祖に出会い、先人らの遺徳を偲ぶ門信徒ら延べ2千人以上で本堂は連日満堂となった。



して運管にあたった。また地域の若手僧侶らが外陣に出陣。住職次男の宮本尊文天融寺清田支院願浄寺主菅が中心となり、楽僧らと共に声明方として盛儀を支えた。



北海道の有形文化財にも指定された御本尊

日中法要で稚児らの無邪気な草履の敷かな勢、御親修の厳かな勢、因気の中、行進散華を行った。住職の孫の輝君が幡頭門など近隣の寺院から多くの法中が出陣。安宅信義責任役員ら門信徒が率先

法要は、本山の宗祖七百五十回御遠忌を記念して制作された音楽法要で開いた。各法要が途切れなく動まり、3日朝には稚児らが華を添える庭儀の参道列が第一納骨堂から出発。街路へ出て境内の周囲をめぐり、楽の音とともに讃歎の雰囲気を高めた。つづく結願



御親修における大谷幡頭門首

同寺は明治19年の開教であるが、その後2、3の在勤者の交代を経て、明治21年に山形県真宗大谷派緑陰寺出身の新羅天融師が在勤する。師は開拓期に恵庭村におい

北の大地での労苦を偲ぶ

また2日目の結願後夜法要後に幡頭門首が執行した帰敬式では、90人の門信徒が受式した。

有形文化財・阿彌陀如来立像、そして間衣輪袈裟姿で裸馬の手綱をとる写真が同寺に残され、師の広い見識と在りし日の労苦を伝えている。2代目を宮本教順住職が継ぎ、現在の正尊現住職で5代目となる。

地域の若い僧侶らが、法要を支えた

2010年からは会館・納骨堂・庫裡の改築工事を進めてきた。自然光をふんだんに取り入れた会館「光照殿」と庫裡、2階にはバリアフリーの納骨堂「第二無量寿堂」が竣工した。



門信徒の尽力により改築なった会館「光照殿」と納骨堂「第二無量寿堂」

念仏の種を撒いてくださる。七高僧の一人、道輝禅師様が、前に生まれんものを後を導き、後に生まれんひとは前を訪へ

大谷妙子会長

今年全7座の法話で特別布教使を務めたのは、熊谷宗恵元宗務総長。「天融寺

た経文や親鸞聖人の言葉を丁寧に解きほぐし、み

皆様方も大変感慨深いものがあると思う。その中で親鸞聖人の七百五十回御遠忌法要に遇わせたいただき、私も天融寺の門信徒一同、これを新たな出発とし、本願念仏の教えをより一層身に引きあてて聞きあかし、お念仏が未来へと継承されていくよう、共にいのちを捧げていきたい」と、御同朋への感謝と、共に

真宗大谷派大谷婦人会天融寺支部は1日、創立百周年記念大会を開催した。大谷妙子会長臨席のこの記念大会を明日への第一歩とする大切なスタートラインにして共に歩んでいきましよう」と呼びかけた。

そして妙子会長が、「北二百年の歩みを支えてくださっています。これからも開法の大きな慶びの灯が、今後二百年、三百年と続く事を深く念じます」と、感謝とねぎらいを表した。

宮本春美支部長は、本部署で今年度より宗派直轄となり、運営を担う委員会制のもと、「初代委員長」として妙子会長を支えている。

宮本春美支部長

特別布教使を務めた熊谷元宗務総長は、祝宴では、花柳鳴美首と宮本春美坊守が大和楽『寿』を鮮やかに舞い、

集まった法中・門信徒の目を楽しませた。また各する宮本住職や浩尊候補衆徒らに倣ってか孫の輝くんが愛嬌を振りまき、皆の笑顔誘っていた。

新羅緑陰寺住職

大谷婦人会天融寺支部

会長臨席で創立百周年祝う

帰敬式に臨む門信徒ら



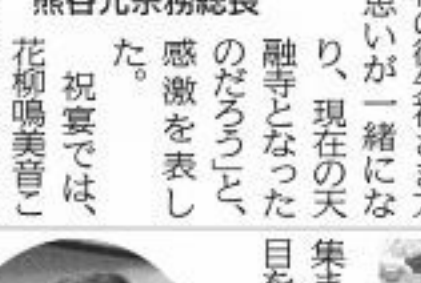
宮本浩尊候補衆徒



宮本正尊住職



特別布教使を務めた熊谷元宗務総長



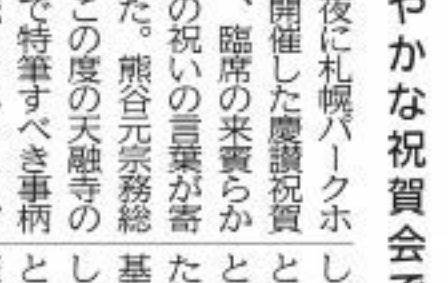
新羅緑陰寺住職



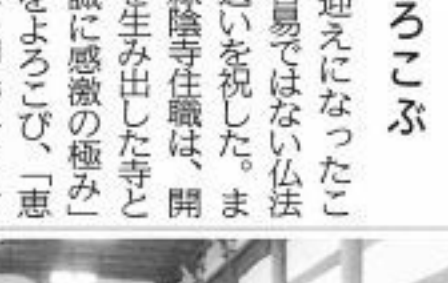
華やかな祝賀会でよろこぶ



3日夜に札幌パークホ



特別布教使を務めた熊谷元宗務総長



祝宴では、花柳鳴美首と宮本春美坊守が大和楽『寿』を鮮やかに舞い、



集まった法中・門信徒の目を楽しませた。また各する宮本住職や浩尊候補衆徒らに倣ってか孫の輝くんが愛嬌を振りまき、皆の笑顔誘っていた。



新羅緑陰寺住職